

東洋陶磁学会 2018年(平成30年)度 事業報告

総会

日 時:平成30年6月2日(土)午後1時～

会 場:学習院大学北2号館(文学部研究棟)10階大会議室

記念講演:「松平不昧の茶の湯」赤沼多佳(三井記念美術館)

大会(参加者:82名)

日 時:平成31年1月19日(土)・20日(日)・21日(月)見学会

会 場:鹿児島県歴史資料センター黎明館 講堂

テーマ:「薩摩焼研究の現状と課題—この四半世紀の成果から—」

見学会:日置市美山(沈壽官窯資料館、周辺窯跡等)、始良市加治木郷土館(始良市加治木出土の窯跡資料等)、龍門司窯(工房・古窯跡等)

日 程

1月19日(土)午後1時～

・東洋陶磁学会常任委員長挨拶

大橋 康二

・基調講演

「薩摩焼研究の現状と課題」

渡辺 芳郎

・鹿児島県歴史資料センター黎明館 明治維新150周年記念黎明館企画特別展

「華麗なる薩摩焼—万国博覧会の時代のきらめき」見学

1月20日(日)午前10時～

・研究発表

「堅野(冷水)窯跡出土の薩摩焼一型打ち製品を中心に—」 関 明恵

「茶会記と売立に見る薩摩焼茶入」

松村真希子

「鹿児島県始良市における薩摩焼窯跡の調査」

深野信之

「薩摩焼と琉球陶器」新垣 力

「幕末から明治初期にかけての初期輸出向け薩摩焼の特徴と展開について

—在外資料調査の成果を含めて」

深港恭子

1月21日(月)午前9時～

・見学会

日置市美山(沈壽官窯資料館、周辺窯跡等)

始良市加治木郷土館(始良市加治木出土の窯跡資料等)

龍門司窯(工房・古窯跡等)

研究会

平成30年7月14日（土）午後1：30～ 於学習院大学北2号館10階大会議室(32名)

菅沢そわか（福井県立越前古窯博物館）

「経塚に埋納された青白磁の合子と小壺の変遷—中国紀年墓出土品との比較を中心に—」

高木大輔（出光美術館）

「中国・北宋代の磁州窯における文様表現について—「白地黒掻き落し」を中心に—」

10月13日（土）午後2：00～ 大阪市立東洋陶磁美術館(27名)

鄭 銀珍(大阪市立東洋陶磁美術館)

「近代における高麗青磁の「再発見」と高麗青磁再現品の様式」

*特別展「高麗青磁—ヒスイのきらめき」(2018.9.1～11.25)

10月20日（土）午後2:00 ～ 青山学院大学2号館232教室(22名)

「インドネシア・マンクネガラ王宮所蔵の陶磁器について」

ミヤ・ロスティカ(国士舘大学)

「現代インドネシアにおけるジャワ伝統文化の位置とマンクネガラ王宮の概要」

藤掛泰尚(小田原市文化財課)

「リモージュを初めとするヨーロッパ陶磁」

鈴木裕子(株イビソク)

「近代日本陶磁」

矢島律子(町田市立博物館)

「中国陶磁」

11月11日（日）午前10:30～午後3:00 於富山市民俗民芸村管理センター講座室(17名)

鹿島昌也(富山市教育委員会)

「富山城・城下町遺跡の発掘調査と出土陶磁器の様相」

新宅輝久(株アーキジオ)

「越中国内で出土した搬入陶磁器の出土傾向の特徴とその背景について」

高木好美(富山市陶芸館、富山市考古資料館)

「越中瀬戸焼・小杉焼・越中丸山焼について—伝世品と出土品との比較を通して—」

*企画展「越中瀬戸焼・小杉焼・越中丸山焼—富山城下町出土資料からの視点を加えて」

平成31年3月23日（土）午後2:00 ～ 青山学院大学総研ビル14605教室(34名)

安河内幸絵(サントリー美術館)

「セーヴル磁器製作所における“軟質磁器”と“硬質磁器”」

矢島律子(町田市立博物館)

「蘇麻離青について」

後援事業

第12回李秉昌博士記念公開講座「高麗と汝窯の新発見」

日 時:平成 31 年 1 月 12 日(土)受付 12:30～

会 場:大阪弁護士会館 2 階会議室(大阪市北区西天満 1-12-5)

主 催:大阪市立東洋陶磁美術館・(公財)大阪市博物館協会

学会誌

第 48 号:平成 31 年 3 月 31 日発行

「自然科学系の東洋陶磁研究報告」(第 45 回大会発表を中心に)

会報

第 89 号:平成 30 年 10 月 31 日発行(総会編)

第 90 号:平成 30 年 12 月 10 日発行(考古編)

常任委員会

第 1 回:平成 30 年 4 月 14 日 於東京藝術大学

第 2 回:平成 30 年 6 月 2 日 於学習院大学

第 3 回:平成 31 年 1 月 19 日 於鹿児島県歴史資料センター黎明館

第 4 回:平成 31 年 3 月 20 日 於学習院大学

編集委員会 メールで随時開催

学会改革 ホームページ拡充

その他 学会誌バックナンバー配布、会員拡充